

学校番号36 横手城南高等学校 中期ビジョン（5か年計画）

本校が目指す姿

1 学校の現状や課題

共学校として十数年を経て、令和5年度に110周年を迎えた伝統校である。地域でも共学校としての存在意義が十分に認識されているが、近年は男子生徒数が3割程度となっている。進路先は、4年制大学、短期大学、専修学校、就職と多岐にわたっており、国公立大学への希望者数が増加している。また、看護医療を学ぶ学校への進学希望者が多い。

入学者の基礎学力を向上させ、進路希望達成に向けた進学指導の強化が課題である。令和元年から50分授業とし、教育課程及びクラス編成と類型を見直した。さらに進路指導とキャリア教育の充実を図り、生徒の意識改革と進路実現を目指す必要がある。

2 学校を取り巻く将来状況の予測

県南地域の児童、生徒の減少が著しく、さらに横手地区においては、令和8年3月の中学校卒業生数は628人(令和2年3月比-142人)の予測である。今後も、1学年4クラスで、学校の活力を維持する学校づくりが求められる。地域の他の学校と異なる特色ある教育課程の編成と、生徒一人一人を大切にする進路指導を充実させ、地域住民から期待される魅力ある学校づくりに取り組む必要がある。

3 スクール・ポリシー

(i) グラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像）

校訓「恕心・誠心・協心」

「恕心」は、人を思いやる心、人への思いやりを大切にする心。普遍的な愛。

「誠心」は、まごころ、誠の心、誠意を尽くして人や物事にあたる心。

「協心」は、力を合わせて、ともに頑張ろうとする心。お互いに心をかよわせて和する心。

生徒指標「清く、明るく、美しく、まごころ」の三く一ろの訓おしえ

校訓と生徒指標に基づき、主体的に学校生活に取り組み、地域社会に貢献できる人材を育成する。

(ii) カリキュラム・ポリシー（本校の学び）

周囲の人々と協働しながら課題解決に積極的に取り組むための資質・能力の育成を図るために、探究的な学習活動に重点を置く。

- ・多様な進路希望に合わせた科目選択が可能なカリキュラム
- ・探究的活動のための普通科デジタル探究コースの設定
- ・一人一人の進路実現に向けての学力養成

(iii) アドミッション・ポリシー（求める生徒像）

- ・志を高くもち、社会に貢献しようとする意欲と、思いやりのある生徒。
- ・学習成績が優秀で、本校を志望する動機・理由及び将来の進路目標が明確であり、学習活動に主体的に取り組む生徒。
- ・体育的・文化的活動において優秀な資質・技能を有し、入学後も継続して活動する意欲のある生徒。

5年間を通しての具体的な目標と取組

1 キャリア教育の充実を図り、生徒の進路希望を叶えるきめ細かな指導を行う。

- ・生徒の多様な進路希望を実現させるため、基礎学力の向上を図る。
- ・情報の収集と共有化に努め、生徒一人一人の進路に即したきめ細かな指導を行い、自己決定力をもつ生徒を育成する。
- ・インターンシップ、進路講演会など、様々な教育活動を通して、進路実現に結び付ける。

2 大学等への進路指導を強化し、確かな学力を身に付けさせる。

- ・授業改善に学校全体で積極的に取り組み、生徒の学力向上に結び付ける。また、先進校視察等、職員のスキルアップを図り、国公立大学への合格者数を伸ばす。
- ・4年制大学、短期大学をはじめとした進学希望生徒に対して、進路指導を強化する。

3 部活動の活性化を図り、全国大会に出場する生徒を育成する。

- ・毎年、運動部、文化部から全国大会に出場する生徒を送り出し、また、複数の部が東北大会に出場することを目指す。
- ・部活動の活性化と学習活動とのバランスを図る上から、全ての生徒の最終下校時刻を午後7時30分とし、家庭における学習時間と休養時間を確保する。

4 積極的にボランティア活動等に参加することで、地域とのつながりを強める。

- ・ボランティア活動に積極的に取り組み、人格育成の一助とする。
- ・地域の伝統行事に積極的に参加して、地域社会に貢献できる人間を育成する。
- ・横手市山内地区との地域連携ボランティアを通して、地域住民との交流を深める。

